

# せりよさ



## 青春く325人の物語 第58回文化祭



### 涙と笑いに溢れた劇

6月13日(土)、本校にて第58回文化祭が行われた。今年度は「青春く325人の物語(ストーリー)」というテーマのもと、各学級や団体が趣向を凝らしたユーモア溢れる企画内容となった。準備期間中においては、総体や模試、検定に向けて励む中、最高のものを仕上げようと練習や制作に取り組む生徒の姿がそこにはあり、次第に思いが形になっていく様子を垣間見ることができた。

当日は、書道部によるパフォーマンスから幕を開け、3年生を中心に観客を魅了するために工夫を凝らしたステージが繰り広げられた。また、1・2年生のバルーンアートやモザイクアート、バカッコイイ動画やペットボトルキャップアートなどの展示や、生徒・PTAによるバザーも文化祭



### テーマソングを合唱

今回の文化祭を通して得た経験を糧に、今後もさまざまな色で彩られたにじいろ輝く青春を謳歌していつてほしい。

総合的な学習の時間に「沖高立志塾」が開かれた。生徒たちは4分野に分かれて、それぞれの講師の方々の話を聞き、郷土についての理解を深めた。講師としてお招きしたのは、自然・地理分野のウミガメネットワークの山下芳也さん、歴史・未来分野の、和泊町歴史民俗資料館の先田光演さん、観光・経済分野のPeace Girls・カフェ ティザーヌ代表の笹智之さん、文化・芸能分野の芭蕉布工房の長谷川千代子さん、以上4名の方々。事前の打ち合わせや準備の段階から、それぞれの



(上)ペットボトルキャップアート (下)バルーンアート

### 温かな沖吹サウンドが響く♪

#### ～吹奏学部定期演奏会～

6月20日(土)、あしびの郷・ちなにて、吹奏楽部の第29回定期演奏会が行われた。シンフォニック・ステージでは、吹奏楽では定番ともいえる「吹奏楽のための民話」や、今年度の吹奏楽コンクール自由曲でもある「森にいだかれて」を演奏し、吹奏楽らしい温かで輝きのあるサウンドを響かせることができていた。また、今年は、知名中学校吹奏楽部と城ヶ丘中学校ボランティア部に賛助出演をいただき、単独での演奏に加え、3校合同で2曲を演奏し、本演奏会に花を添えていただいた。ポップス・ステージは3年生の楽しい司会で進行され、1年生のダンスとともに「妖怪ウォッチメドレー」を演奏したり、「島唄」で本校エイサー部とのコラボレーションをしたりと、盛りだくさんの内容であった。演奏後、鳴りやまない拍手をいただいたことが、生徒たちの達成感や自信につながったように思う。今演奏会での経験を生かし、今後も目標を高く持ち、沖吹サウンドをたくさんの方へ届けられるよう、邁進していきたい。最後に、ご来場いただいた皆様、応援やお手伝いをしてくださった皆様に、心から感謝します。本当にありがとうございました。



### 自らの観点から郷土を見つめて 沖高立志塾

6月4日(木)、1学年の総合的な学習の時間に「沖高立志塾」が開かれた。生徒たちは4分野に分かれて、それぞれの講師の方々の話を聞き、郷土についての理解を深めた。講師としてお招きしたのは、自然・地理分野のウミガメネットワークの山下芳也さん、歴史・未来分野の、和泊町歴史民俗資料館の先田光演さん、観光・経済分野のPeace Girls・カフェ ティザーヌ代表の笹智之さん、文化・芸能分野の芭蕉布工房の長谷川千代子さん、以上4名の方々。事前の打ち合わせや準備の段階から、それぞれの

専門分野を通して沖永良部島の魅力をいかに伝えるか、と考えることを考えておられた。そのため、どの講座も講師の生き様や情熱、郷土愛が伝わってくる素晴らしいものであった。山下さんは、豊富な画像でウミガメの生態、湧水、野鳥のことを話してくださいました。生徒からは、「もっと沖永良部島の海を綺麗にして、この良き自然を自分たちの手で守りたい」との感想が聞かれた。先田さんは、ユリを始めとする農産物によって「農業の盛んな沖永良部」という印象が定着するまでの、先人た

ちの苦勞の歴史を話され、生徒たちは自分の先祖を誇りに思ったようだった。竿さんは都会でお仕事をされて郷里に戻られた経験を話された。多くの生徒が、「マイナスはプラスに変えるための大切な要素であり、自分も郷土のために何ができるかを今から考えていきたい」と話してくれた。長谷川さんは、早くから芭蕉布に携わっていたわけではなかった。恩師との出会いから芭蕉布を習い、一つのことを継続してやり遂げる根気・集中



1	(水)	期末考査③
2	(木)	期末考査④
3	(金)	進路ガイダンス
4	(土)	7月分諸会費納入期限
5	(日)	小中高連絡会
6	(月)	進研模試(普全)
7	(火)	進研模試(3普)
8	(水)	英検二次
9	(木)	開陽スクーリング
10	(金)	ビジネス文書実務検定
11	(土)	全校朝礼(頭髪服装検査)
12	(日)	期末追考査
13	(月)	安全点検日
14	(火)	安全点検日
15	(水)	3年進路検討会
16	(木)	土曜課外(普全)
17	(金)	開陽スクーリング
18	(土)	SHR
19	(日)	クラスマッチ
20	(月)	7限せりよさカット
21	(火)	期末考査事後指導
22	(水)	交通安全の日
23	(木)	交通安全の日
24	(金)	期末考査事後指導
25	(土)	交通安全の日
26	(日)	交通安全の日
27	(月)	交通安全の日
28	(火)	交通安全の日
29	(水)	交通安全の日
30	(木)	交通安全の日
31	(金)	交通安全の日



### ★7月行事予定★

熱意溢れる実習  
教育実習

6月1日(月)から、教育実習が行われた。本校の卒業生3名が、2週間もしくは3週間の日程で、指導教官のもと教育実習に臨んだ。

実習生は、自らの授業に資するため様々な教科の授業を熱心に参観していた。また、清掃や部活動等の時間も、冲高生とのふれあいの時間として大切にしていた。実習生の教育や冲高生に対する情熱は、きつと伝わっていたことと思う。そして、自らの進む道に向かって、妥協することなく真摯に取り組む先輩方の姿は、冲高生の将来の姿でもある。実習生が、この体験を社会の中で人のために役立ててくれると信じている。

最後に、実習生から冲高生へのメッセージを紹介したい。

皆さんは沖永良部島で育ってきた分、島外への憧れも強く「早く島を出たい」と考えている人もいると思います。一旦島外で暮らし、外の世界を知ると同時に、沖永良部島を客観的な視点で見る機会にもなります。改めて島の良さや島人の温かさ、この環境で育ててもらえた有り難さに気付くことができます。外に出て色々な経験をするためにも、自分の進路を見つめ目的に向かって行動してください。今の自分の考えや行動によって未来

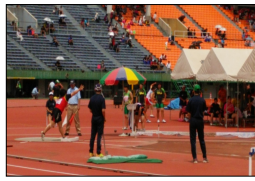
の自分が作られていきます。(藤井 未生先生)

高校生活は有限なものでいつか卒業する日がくる。そこで振り返ったときに、もう一度高校生活を送りたいと思えるような日々を過ごしてほしいというのが私からのメッセージです。ただ日々を過ごすのではなく、一日一日を充実した日々。部活で仲間と汗を流したり、友人と何気ない会話をしたり、または自分の趣味や勉強、家のお手伝いをしたりするなど、何でもいいので楽しい思い出を作ってほしいと思います。(泉 亮輔先生)

3週間お世話になりました。先日の文化祭では、皆さんの前向きな明るさと粘り強い根

九州大会出場!~陸上部・書道部

陸上の南九州大会が6月11日(木)から4日間の日程で鹿児島市で開催され、東きよらさん(2-1)が、砲丸投と円盤投の2種目に出場した。



投擲競技は各選手が3回投げた後、記録の高い8人だけで再び3回投げ、計6回のうち記録順に6人がインターハイへの出場権を獲得する。東さんが得意とする砲丸投では、自己ベストの10m35の記録を出したものの、惜しくも9位であった。また、円盤投では本来の力を出し切ることができず、12位に終わった。しかし、次の大会に向けて、そして来年度のインターハイ出場を視野に、これからの練習に取り組む契機とすることができたようである。

一方、6月18日(木)~20日(土)にかけて、第21回九州高文連美術・工芸・書道・写真展が宮崎県にて開催された。揮毫大会(書道部門)は大会2日目に行われ、九州各県と沖縄県を代表する生徒が一堂に会し、2時間という限られた時間で作品制作を行った。心地よい緊張感の中、本校生の上村英美香さん(3-1)も、今まで培ってきた実力の全てを遺憾なく発揮した。そして最後に、「今大会に参加することができたのも、今まで自分を支えてくれた方々の存在があってこそ。心から感謝したい。」という言葉が本人が残してくれた。今回の経験を通して得たものを、進路実現に繋げてもらえたらと願う。



2人とも九州大会への出場が大きな刺激になったようである。今後の更なる飛躍に期待したい。また、九州大会出場に対し、多くの激励をくださった保護者、地域の方々に感謝を述べたい。



性を見せたいと思います。私も高校時代を思い出し、懐かしかったです。沖高の先輩として皆さん

辛い坂道を乗り越えたときに人は大きく成長すると思えます。冲高生一人ひとりの可能性を信じています。そして、これからの沖永良部島を共に支えていきましょう!島魂を忘れずに!(窪田 めぐみ先生)

未来の自分のために  
放課後課外

6月15日(月)から3年生(普通科)の放課後課外が始まった。この放課後課外は、文化祭でクラス一丸となつてステージを盛り上げた3年生が、いよいよ自らの進路実現に向けて具体的に邁進する第一歩である。本年度は国語・数学・英語・地歴公民・理科の5教科で、毎日6時まで学習に取り組む形で実施されて

いる。この放課後課外によって受験スイッチが入り、力を付けていく3年生も多い。今は、一生懸命に取り組んでいる生徒もいれば、なかなか気持ちの切り替えが出来ずに集中できていない様子の生徒もいる。しかし、ここでの頑張りや自分自身に返ってくることに気付けば、どうすれば良いかが自ずと分かるはずだ。これからAO入試や推薦入学など、様々な上級学校の入学選抜試験が実施される。そして、この放課後課外が終了する頃には、センター試験を前にしている3年生もいることだろう。そ



志望理由書の書き方  
小論文ガイダンス

6月20日(土)、第一学習社の長岡裕子先生を講師にお招きして沖高教育振興事業「小論文ガイダンス」を実施した。今回は受験を控えた3年生を対象にした第1回講義で「志望理由書の書き方」についてであった。

最初に大学や企業の評価の観点や、志望理由書を通して何を求めているかについての話を聞き、大まかな構成について説明を受けた上で、実際に30分で志望理由書に挑戦した。その後、設問分析の確認と、現在↓過去↓未来の時間軸のつながりを解説されて自己評価と添削を行った。最後に、もう一度40分間志望理由書に取り組んだ。全体で3時間の講義であったが、1回目ほとんど書けなかった生徒が、講義終盤の2回目にはすらすらと筆が進み、700字の立派な志望理由書を書きあげる生徒も多く見られた。生徒も「書き方が分かった」「何を書けばいいのかイメージがつかめた」など、手応えを感じている様子であった。

3年生はこの夏以降、それぞれの進路に向けての戦いが始まる。自分らしい志望理由書を自信を持って書き上げ、進路実現に一步近づいてくれるものと期待している。